

平成21・22年度

鳥取市政懇話会

「広域交流観光」部会 意見・提言書

【開催実績】

| 開催日 | テーマ |
|-----------------|----------------------------|
| 第1回 平成21年 8月28日 | テーマ決定、フリートーク |
| 第2回 平成21年11月17日 | 「山陰海岸ジオパークについて」 |
| 第3回 平成22年 1月20日 | 「滞在型観光都市について」(第1回) |
| 第4回 平成22年 6月 3日 | 「滞在型観光都市について」(第2回) |
| 第5回 平成22年 8月31日 | 「より多くの観光客に来ていただくための方策について」 |
| 第6回 平成22年12月 7日 | 意見・提言書について |

【はじめに】

- 近年、経済不況や人口減少、個人の価値観の多様化などにより旅行形態が変化し、全国的に国内旅行が低迷しており、今後ますます地域間競争が激化することが予想されます。
- 広域的な圏域で協力して観光客を呼び込むことが重要となるなか、鳥取自動車道の県内区間開通を記念し、平成21年度に「2009鳥取・因幡の祭典」が開催されました。
- その成果や体験を引き継ぎながら、ますます鳥取・因幡が結びつきを強め、関西圏をはじめとする各地域との交流を積極的に進めていく必要があります。
- また、山陰海岸ジオパークの世界ジオパークネットワークへの加盟により、広域観光のさらなる展開が期待されることから、各地域の連携をさらに強化し、持続的、行動的な取組みを行うことが重要であると考えられます。
- このような状況・考え方を踏まえ、本部会で行った議論のまとめとして、次のとおり提言します。

山陰海岸ジオパークについて

○情報発信の強化

- ・目立つ場所に誰もが理解できる案内板を設置
- ・市報に分かりやすく連載
- ・鳥取―東京便機内でのアナウンス実施

○人材の育成

- ・ガイド養成のための研修所の開設
- ・研修による説明技能の向上（分かりやすく、興味をひく説明が求められる）
- ・ガイド選手権の開催（話題性があり、技能の向上にも寄与）

○実体験できる環境の整備

- ・ここでしかできない楽しみ方（水の中に入って遊ぶ、空からの観光等）を提供することにより、リピーターを獲得
- ・手軽に実体験ができる場所として、既存の拠点施設を活用

○教育の充実

- ・小・中学校の授業に現地学習を導入
- ・山陰海岸での臨海学校を再興
- ・子どもたちから大人へ、興味・関心の拡大
- ・興味を持つきっかけづくり（砂、熱帯魚など様々な切り口からアプローチ）

○宝物、新たな魅力の掘り起こし

- ・地形に関連した特産品の開発
- ・砂地での新たな農産物栽培
- ・癒し効果を医療現場等で活用

○地域の盛り上がりの醸成

- ・学術的なことを分かりやすく伝え、地域の中に密着化
- ・「〇〇ロード」名称の公募
- ・点を線でつなぎ、鳥取県、兵庫県、京都府の取組みを一体化
- ・郷土の素晴らしい自然に皆が誇り・愛着を持ち、世界に発信

滞在型観光都市について

○鳥取自動車道の周知・鉄道アクセス等の向上

- ・自動車道の存在を認知してもらうため、各団体への働きかけを強化（道路交通情報、経路検索等に登録され、多くの人に認知されることが必要）
- ・自動車道だけでなく鉄道面の見直し（山陰本線のダイヤ復活・増便の運動）
- ・ダイヤ改正等を、自治体のトップが直接要望できる仕組みづくり

○近隣地域との連携

- ・近隣市町でひとつになった、滞在可能な観光ルートの考案
- ・地域の独特な活動（鹿野のまちづくり等）を他地域とつなげ、発信
- ・近隣地域全体での宿泊客の増加（鳥取市に宿泊してもらうことばかりを考えない。）

○温泉整備の推進

- ・商品としての温泉の磨き上げ
- ・長期的展望にたった温泉整備のプランニング
- ・温泉に自由に入ることができる、はしごできる仕組み作り
- ・豊富なお湯の活用

○地域住民の参加促進

- ・地元への投げかけ、皆でやろうという機運の醸成
- ・地元住民の興味をひく手法の考案

○特色ある観光施策の推進

- ・ふるさとを思い起こす心に注目したまちづくり
- ・「水のある風景」の魅力、水を大事にした施策の実施
- ・参加型・体験型の観光、スポーツ大会の実施

○おもてなし体制の充実

- ・住民一人ひとりが温かく接する姿勢
- ・大規模な旅行会社とは異なる、友達感覚で観光地をご案内するような仕組み作り
- ・外国からの観光客、留学生への配慮（外国語表示看板の設置等）

○知名度を高める取組みの実施

- ・砂像展示を年間通して実施し、砂像のまちをアピール
- ・トップセールスの実施とそのフォロー
- ・県外へ出かける際に、一人ひとりが鳥取の良さを宣伝

より多くの観光客に来ていただくための方策について

○観光商品の開発・新たなサービスの提供

- ・観光業者や旅行業者への働きかけ
- ・年齢、家族連れ等、お客様に合う様々な滞在型商品を提供
- ・共通割引券、年間パスポート等の導入
- ・入場料や駐車料金の無料化
- ・個人に比べて安価で参加できるバスツアーの実施
- ・流行を意識した呼び込み、大きなイベントの実施（歴女、ガールズコレクション、有名人と行くツアー等）
- ・特色ある列車の運行（食堂車等）
- ・南国の人向けに、雪をテーマにしたツアーを提供
- ・宿泊施設のバリエーションを豊富化
- ・温泉のネットワーク化（様々な効能の湯めぐり、入るだけでなく休憩できる環境）

○砂丘、砂を目玉にした施策の実施

- ・砂を使ったイベント等、目玉を作り、滞在型ルートを考案
- ・砂像フェスティバルのような大きなイベントを継続して開催
- ・砂像とジオパークを関連づけ、相互に付加価値を創出

○交通の便の改善・運賃の引き下げ

- ・時間、運賃の両面で手軽に行き来できる体制を整備
- ・ホテルと飛行機をパックにした安価なプランの考案
- ・特急や飛行機の運賃値下げのため、皆が声をあげる運動の実施

○その他

- ・旅行者や県外者の視点にたち、鳥取の魅力を再考
- ・砂丘だけでなく、色々な鳥取の良いところをマスコミ等でPR
- ・「街道」を目玉にした観光施策の推進
- ・民間が地域でもっと自由に動けるよう、規制等を緩和
- ・市民一人ひとりの自覚、意識改革（もてなしの心と誇りを持って、宣伝）
- ・旅の目的地だけでなくその先にも行ってみたいと思わせる、魅力の掘り起こし
- ・訪れる人を感動・感激させる「食事、もてなしの心、歴史の深さ」を大切に
(安くておいしい地産物、丁寧なもてなし、歴史が古いものを良い状態で保存 等)